

戦争の記憶を風化させない。
そして、沖縄の今を知る。

沖縄写真展 「名護ー沖縄戦から現在まで」

7月11日(木)まで開催中

時間：平日9時～19時 於：弁護士会館1階ロビー

主催：東京弁護士会



新基地建設作業が進む米軍キャンプ・シュワブ沿岸部。手前はN4護岸、名護市辺野古（小型無人機で撮影）2019.02.24（写真 沖縄タイムス社提供）



写真 沖縄県公文書館提供

「海兵隊が村を占領した後、避難していた山から帰ってきた子ども。」



問合せ先
東京弁護士会人権課 03-3581-2205

私たち今を生きる国民は、74年前に終結した戦争のこと、とりわけ沖縄戦のことを決して忘れてはならないと思います。

沖縄での地上戦は、沖縄本島では南部で激戦が行なわれる一方、北部などを含め全島で展開されました。そして、多くの尊い生命が犠牲になり、土地は焼土と化しアメリカ軍の基地として奪われるなど、甚大な被害を蒙りました。

沖縄戦は日本軍にとって勝ち目のない戦いであったにもかかわらず、本土防衛、国体護持のために捨石として行われた戦争であり、そのために沖縄が犠牲となったことを忘れてはなりません。

また、現在、アメリカ軍の普天間飛行場の移設に伴い、名護市辺野古崎周辺の区域において、沖縄県民の多数の反対にもかかわらず新基地建設のための埋立等の工事が進められています。大浦湾及びその周辺には豊かな自然やそこに暮らす動・植物の営みがあり、環境及び生態系に対する悪影響が憂慮されています。

戦争の記憶を風化させることなく、写真のもつ力によって、太平洋戦争時から現在に至るまで変わらず沖縄が本土のために犠牲となっている実態を知っていただきたいと考えました。

太平洋戦争下の沖縄県名護市と現在の名護市辺野古の写真を共に展示することといたしました。



丸ノ内線「霞ヶ関」駅
B-1b 出口
千代田区霞が関1-1-3